

④新規用途開拓による地域農林水産物の需要拡大、ブランド向上

## 空き倉庫などを活用して特殊な菌床(ほだ)で栽培した、もぎとりができる「なにわ椎茸」の開発と販売

独自開発した菌床により栽培した「なにわ椎茸」のブランド化と肉厚な椎茸の活用による加工食品の開発・販売

### ➤ 連携体

農林漁業者

(株)椎茸ジャパン (農業)

特殊な菌床(ほだ)と独自ノウハウを用いて栽培した、大きく、肉厚な「なにわ椎茸」の安定生産・安定供給を図る。

中小企業者

フーズバンクインターナショナル(株) (食料品製造業)

「なにわ椎茸」ブランドの、生椎茸、乾燥椎茸、菌床(ほだ)の販路拡大や加工食品の開発並びに全般的な営業戦略を図る。

サポート機関等

大阪府中小企業団体中央会、地域活性化支援事務局

### ➤ 連携の経緯

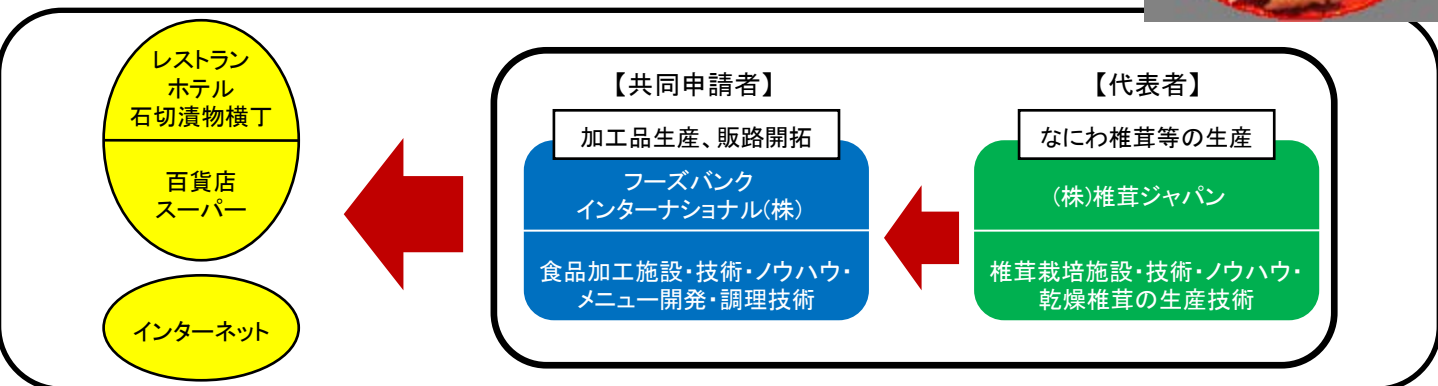
(株)椎茸ジャパンは、空き倉庫などを活用した独自の生産システムを確立し、大阪での地産地消を目的に、特別栽培で「なにわ椎茸」を栽培してきた。一方、フーズバンクインターナショナル(株)は、食の安心・安全・健康・自然をキーワードに、商品開発と販路開拓を行ってきた。高付加価値商品、地域ブランド(なにわ椎茸)の確立を目指し当事業での連携を開始するに至った。

### ➤ 連携に当たっての課題や工夫等

料理の脇役として使用されがちな椎茸を、主役として取り扱うことに課題がある。(株)椎茸ジャパンは独自ノウハウを用い、傘直径が大きく、肉厚でもぎとりができる「なにわ椎茸」を栽培する。フーズバンクインターナショナル(株)は「なにわ椎茸」の特長を活かした椎茸の販売と加工食品開発に取り組む。椎茸は、ビタミン等を多く含み、食べて効く食品である。健康、安心、安全を志向する顧客をターゲットとし、新しい販路を開拓していく。



商品イメージ  
上:なにわ椎茸  
右:なにわ椎茸丼



### ➤ 連携による効果

農林漁業者

売上高 3,000万円(平成26年目標) 地元雇用6人の増加

なにわ椎茸は年中安定して栽培でき、大きい、肉厚、ジューシーと高品質であるため、高い収益性が期待できる。

中小企業者

売上高 5,000万円(平成26年目標) 地元雇用5人の増加

食材の特徴を活かした付加価値の高いメニュー開発や、市場の開拓により、商品力の強化が期待される。

### ➤ 代表企業等の連絡先

企業等名 : 株式会社椎茸ジャパン

所在地 : 大阪府豊中市上津島1-10-32

TEL : 06-6866-2838

FAX : 06-6866-2824

E-mail : spsa4br9@heart.ocn.ne.jp